

制度という枠組みを抜ける

Gap Yearとは、高等学校から大学への入学、あるいは大学卒業から大学院への進学までの期間（隙間＝Gap）のことです。その隙間の期間に、例えばアルバイトなどをして今後の勉学のための資金を貯めたり、語学留学をしたり、あるいはボランティア活動に参加することにより、大学では得られない経験をすることが推奨されています。対して、現代の日本における休学にはネガティブなイメージが持たれています。今回は、Gap Year が将来を考える上で1つの選択肢になってくれればと思い講演会に参加させていただきました。

まずは、今回の題名になっている「制度という枠組みを抜ける」についてです。今回の講演会をするにあたり周囲の休学をした人と日本の休学・就学制度や就職活動という制度について意見を交換しました。話を進めると、必ず今の日本の制度が学生の学ぶ機会を狭めているのではないかという話題に移りました。例えば、大学に四年以上在籍した場合、就職活動に不利になる可能性がある、大学進学自体が就職活動のためで、そのためこれといったやりたいことがない、などです。休学したくてもできない、そもそも休学してまでやりたいことがないのが、今の日本の現状だと考えます。なので、日本の制度にとらわれず、Gap Year という新しい選択肢を知ってほしいと思いこのタイトルにしました。

Gap Year は様々なメリットがあります。留学やボランティアなどだけでなく、就業経験を積むなどして自分の将来の進路についてしっかりと考える時間もつくれます。さまざまな人と接することで、視野が広がり、柔軟な考え方ができるようになります。一つのことだけに取り組むのも良いですが、様々なことに挑戦して自分の適性を探ることも可能です。ただ、Gap Year にはもちろん、デメリットもあります。休学すればなんにでも取り組める時間をつくれると同時に、計画性や目的をもって行動しなければなにもせずに終わります。自分自身で主体的に考えなければなりません。しかし、その経験すらも、自分の糧になります。

私のGap Year についてお話しします。学費を集めるために休学したのですが、UNIQLO を選んだ理由は、ただ学費を稼ぐためでなく“社会”経験も得たいと思ったからです。留学前も UNIQLO でアルバイトをしていたので、幅広い年代・強い個性を持つ様々な人がいることを知っていました。彼らからいろいろな人生の歩み方を聞き、自分自身、型にはまった生き方をしなくてもいいのだと、気持ちに余裕を持つことができました。また、以前アルバイトしていたときと違い、今回は社員の方と同じ時間勤務しました。つまり、週5日以上1日8時間以上の勤務です。以前はマニュアルの通りに動く側でしたが、今回は自分自身が新しいマニュアルを提案したり、後輩のスタッフをまとめたりする側になり、圧倒的に自主的に動きました。半年間休学して、私は自分自身がどういうことに向いていて、なにが得意で、どのような欠点があるか知ることができました。今後、ドイツに関わる仕事か、もしくはドイツで働きたいと思っています。今回の休学での経験を生かして自分への自信を忘れずに仕事を探そうと考えています。